

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500297		
法人名	社会福祉法人 百徳会		
事業所名	グループホーム 佐伯の太陽		
所在地	大分県佐伯市駅前1丁目1番11号		
自己評価作成日	平成29年2月15日	評価結果市町村受理日	平成29年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4490500297-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4490500297-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壺番館1F
訪問調査日	平成29年3月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①全職員が思いやりのある介護、楽しみのある生活、安心できる居場所の提供を目指しそれぞれの得意分野を発揮しながら日々対応に取り組んでいます。
- ②施設の1階にはクリニック、連携している訪問看護ステーションがあり、定期受診や定期訪問等、必要時の支援や相談、協力が得られる。
- ③佐伯市の中心部に位置し、JR駅やスーパー、ドラッグストアがすぐそばにあり、協力医療機関で母体でもある佐伯中央病院にも近く、施設裏の河川に沿っての小道は散歩コースに適した環境です。
- ④当事業所は施設の4階にあり、一日中陽当たりの良い明るい構造です。夜明けの日の出を利用者と共に拝み、『今日も元気で暮らしましょう・・・』と、利用者の号令から一日がスタートします。夏はペランダから花火大会の花火が眺められ、利用者のほとんどがホールの方でそれぞれの気の合う仲間と過ごします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人が医療機関であり、施設に常に医師・看護師が配属され、緊急時に対応できるシステムが構築されています。施設も新しく、恵まれた地域環境にあり、設備・ハード面が充実し、特に利用者が安心して生活出来るよう、共用空間が広く取られています。職員が楽しんで仕事に従事し、研修等も積極的に取り入れ、資質向上に取り組まれ、利用者の安心・安全を最重要目標に位置づけし支援の取り組みが充実されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設全体の理念を掲示し朝礼時に唱和しています。地域密着型サービスの意義をふまえた理念や目標を掲げ日々の実践につなげています。	利用者の生活・尊厳を大切にされた理念となっており、全職員が共有する体制が取られ、日常の支援の中に活かされています。	法人全体の理念となっており、グループホーム独自の理念制定を期待しますと共に、掲示位置も利用者・家族等が見やすい場所に設置する事を期待します
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育所園児の訪問や保育所運動会の応援、市の移動図書館こぐま号の利用も本好きの利用者にとっては待ち遠しい楽しみです。買い物や舞踏会への観覧等地域とつながることが少しずつ増えていくよう支援をしています。	区費を納入し地区の一員であり、地区行事等の情報や施設の行事発信等が来ています。ボランティア等から施設訪問を受け、中高生の職場体験など積極的な取り組みをされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生の職場体験や初任者研修等の実習生の受け入れをしています。認知症のかたの支援をホームでの生活スケジュールに沿って体験して頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の会議で2ヶ月間の行事や事業所の取り組み、活動を報告しています。意見や要望にはできるだけ速やかに対応できるように努力し委員さんからの意見がホームの取り組み紹介やサービスの向上に活かしています。	8名の委員さんにより、双方向で積極的な意見交換がなされ、意見・要望等について、対応・改善に迅速に取り組まれ、結果について運営推進委員会に報告されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の中でGHの現状と活動報告をさせていただき、今後の活動計画もお伝えしております。今後もホーム運営へのアドバイスや佐伯市の福祉の現状等について情報提供をお願いしていきたいと思っております。	介護保険制度の変更等について協議され、防災・災害対策についての意見交換や介護認定の更新・変更時に於いてその状況等連携が充分に行われています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	止む負えない場合の拘束については定期的にカンファレンスを行い、状態を見直し、検討しています。	事業所内研修を毎月一回又、外部の研修参加に取り組まれ、参加者以外の人にその内容が報告され全職員への共有がなされ、利用者が外出しそうな気配を感じたら、一緒に行動するなど利用者支援に添った対応をされています	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	資料で勉強したり、研修に参加した人からの伝達や報道等で施設での虐待のニュースを目にすると自己の日々のケアの中での言動が虐待に通じてはいないか、お互いに注意を払い防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については制度についての必要性や知識を深め、学ぶ機会があれば積極的に求め活用する機会に備えていきたいと思えます。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際には、家族が不安に思うこと、疑問点等を尋ねながら説明を行い、不安や疑問点が生じた場合にはいつでも問い合わせ可能の旨を説明し、同意を得ております。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には近況の報告に併せて家族の意見や要望を聞くようにしております。要望にはスタッフと速やかに取り組み、実施しています。施設1階に意見箱を設置しており、他の苦情等の受付機関や方法等もお知らせしております。	意見・要望が出された時は、家族と職員全員で対応するシステムの構築がなされています。苦情・相談など市の窓口・地域包括支援センター等他の機関に申し出る事が出来るなど家族に説明しています		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時の対応方法やスタッフカンファレンス、申し送りノートの活用、面談等でスタッフの意見や提案を聞き、より最善の方法を皆で導き出すように取り組み、運営に反映させるように努めています。	日常的に支援されている職員の意見を重要な事と理解し、朝礼など色々な会議で意見・支援方法が出しやすい環境作りや、出された意見を共有し、利用者本位に改善等も積極的に取り組まれています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は折に触れて現場を訪れ職員一人ひとりが向上心を持って働けるように処遇の改善や労働環境の整備に尽くし、従業員への激励指導に力を注いでいております。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内には新入職者に対して対人援助を生業とする上での知識や技術、資質を査定する評価システムがあります。母体の病院で開催される研修には幅広い内容と出席しやすい回数と設け個々における力量向上の環境を整えています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、同法人の中で人事交流の一環での取り組みが行われている。今後は他事業所とも交流をする機会を作りネットワークづくりや認知症の勉強会等にも参加し、サービスの向上に努めていきたい。			

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴等の把握は入念に行っています。入所直後には関わりの時間を多く設け、困っている事や不安に感じている事、要望等を聞き取り、対応に努めています。気づきをスタッフ全員が共有できるように記録に残し情報収集しています。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めている支援を把握するために導入時には、家族の介護に対する思いや在宅介護での苦労話を聞き、入所の日取りや受け入れ時の対応、体制、部屋のレイアウト等入念に打ち合わせをして臨んでいます。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の面談で家族の思いやご本人の状況を確認しながらGHでの生活の流れや対応できること、その後の状態の変化に伴う必要な支援や他のサービス利用の判断や選択についても見極め説明をしています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	茶碗洗いや洗濯物たみ、おしぼり巻、テーブル拭き等有する力を発揮して頂きながら介護をされる側へ押しやらず、人生の大先輩とお互いに持ちつ持たれつの関係で暮らしています。良い表情の表出には取り組みの成果が見てとれます。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者にとっての一番の支えはご家族の愛情、関わりです。家族とスタッフとが同じ気持ちで本人を支えていくためには日頃の状態の報告や相談をしていく中で、信頼関係が自然と成り立っていくものと感じています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会を心待ちにしています。ご家族にも近隣のかたや縁のあったかたにも気軽に面会いに来て頂ける様お願いしています。外出支援では自宅周辺散策で関係性の継続の支援を今後もして参ります。	利用者の人間関係について把握しながら、自宅へ帰りたいと考える時はその周辺へ連れて行くなど、馴染みの場所との思いを継続できる支援や、電話・手紙等連絡出来る体制を構築しています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	有する力を把握し、お話好きなかたには同じテーブルを囲むように、他者との関係性を保つのが苦手な方にはスタッフが介入して円滑になるように配慮しながら食堂のテーブル席は特に工夫しながら日々支援しています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された時には必ずお見舞いに行き、必要な方には経過フォローしながら、相談支援を行っています。併設のサービスに住み替えをされた方には、茶話会にお呼びしたり、イベント時にもお声をかけさせて頂いております。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの言葉や言葉にし辛い事も日々の行動や表情からも汲み取り、家族にも相談しながら本人本位の思いや希望、意向に寄り添えるよう支援に努めています。	言葉や文章で伝える事が難しくなる人には、返事がしやすい・意志が確認できるコミュニケーション(表情・ジェスチャー)を活用しながら、家族の意見を聞くなど情報を把握し、意向に添うよう取り組みをされています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	暮らしぶりについての情報はケアする側にとっては対応への何よりの手掛かりになります。入所時や入所後にも折に触れてこれまでの暮らしぶりについての把握に努めています。利用者自身からの貴重なお話が聞けることもあります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の出来ること、出来ないことを把握し、休息の取り方や午前、午後の過ごし方の配慮をしている。心地良い居場所の提供や役割を担って頂きながら施設生活が継続していけるように支援していきたい。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族面会時には必ず近況を報告し、改善につながる対応を本人、家族、スタッフと一緒に考えていくようにしています。日頃の関わりの中での思いや意見を聞き、課題をケア計画に反映させるように努めています。	本人・家族・担当者と意見を交わし、本人本位の介護計画を作成されています。状態の急変や本人・家族の要望が生じた時は、モニタリングを行い介護計画の見直しの取り組みをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の変化や気づき、その対応等の記録は日々の記録用紙に記録し、朝、夕の申し送り時に活用しています。申し送りノートも職員間での情報共有のツールとして出勤時には目を通し、利用者の状況、状態把握に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な時には、利用者の身体機能面の低下予防や改善のアドバイスを併設のデイケアのPT、OTにさせていただきます。協力医療機関からはSTの状態確認とケア方法の指示での介入等、多機能面での柔軟な支援も協力要請しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の行事等に地域のボランティアによる楽器の演奏や舞踊等の慰問で入所生活に楽しみや憂いを感じることでできる支援を頂いております。移動図書館の利用、園児との交流も行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どのかたが併設のクリニックがかかりつけ医ですが、本人や家族の希望するかかりつけ医を選んで頂いております。他科(整形や皮膚科、眼科歯科等)についても本人、家族の希望に沿うように受診の手配しております。	同じ建物の併設クリニックをかかりつけ医とされる方が多いですが、本人・家族の希望するかかりつけ医となっています。かかりつけ医の定期的な回診もあり、受診の際は家族の協力も得ています。複数の医療機関と関係を密に結んでいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの提携で週に2回、体調の変化を報告し適切な処置やケア方法、受診のタイミング等をアドバイスしていただいております。昨年末には訪問看護師による看取りに関する研修も行いました。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体の病院には入退院時の情報交換や相談のシステムが確立されており、関係者はそのシステムに則り入退院の手続きを速やかに執り行っています。できるだけ早期にホームでの生活に復帰できるよう関係者に相談調整しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や事業所が対応できることは説明し、家族よりその時点での意志確認書を頂いております。その後の体調や状態の変化に伴っての意向確認はその都度行い、家族の思いを含めたチームでのケアの方向性を協議し臨機応変な支援に努めています。	本人・家族の意向を踏まえ、事業所としてできるかぎりの支援を行うため、医療機関・利用者・家族と連携を密にとり、状態の変化等に柔軟に対応出来る体制を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成しています。救急方の勉強会等も定期的に行い、実践力を養っていきたく思っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年は数回にわたる地震の揺れや隣店舗の小火を経験しました。夜勤帯のスタッフ数の限られた中で如何に速やかに安全に利用者を避難させ自身も身を守る行動がとれるか・今後もこの経験を活かして定期的に訓練を実施していきます。	定期的に、地震や火災等を想定した訓練を行っています。昨年の地震の状況を、写真や記録に残し、それをもとに職員全員で話し合い、今後の取り組みに反映させています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の支援の中に誰が聞いても違和感の無い、言葉がけ、対応さりげない配慮を心掛けています。スタッフ同士が向上し合えるチームになれるようにこれからも努力していきます。	利用者の呼び方からも、常に人格を尊重し誇りやプライバシーに配慮した支援を、職員全員で取り組まれています。職員間で、よりよい支援につながるよう話しやすく、協力しやすい体制づくりに取り組まれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	受け答えし易い言葉をかけたり、選択し易い様に聞き取りをして意志確認をしながら無理強いはしないように努めています。意志表示の困難な利用者には表情や態度で気持ちを汲み取りながら支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはありますが利用者一人ひとりの状態や思いに配慮しながら少しでも楽しく過ごせるように柔軟に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者ごとに受け持ち担当があります。衣類の入れ替えやタンスの整理やその日に着る服は利用者と一緒にいたり、選んだりしています。散髪や爪切り等は定期的を実施、ズボンのゴムの入れ替えや繕い物は担当がします。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今のところ、施設提供食での食支援です。利用者と一緒に調理ができる機会を増やし買い物や準備、後片付け等、一人ひとりが好みや力を発揮する場面を設けることを課題の一つにしていきたい。	利用者の、好みや要望に反映させるための取り組みをされています。イベント食については、その都度利用者と一緒にメニューを決めながら、利用者ができることを職員と一緒に取り組み、より食事を楽しむための支援に、取り組まれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を毎日、毎回管理しています。自力摂取に支障がある方には必要な介助を行い栄養の確保に努めています。食事形態や嗜好の把握に努め、より安定した食生活が継続できるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の力に応じて毎食後に口腔ケアを行っています。セルフケアのできるかたも最後はスタッフが再度磨き直すようにしています。義歯は夜は預かり、ケア用品の消毒や洗浄剤を使つての義歯洗浄は定期的に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立や清潔の保持のために声掛けや誘導のタイミング、排泄介助の間隔は排泄チェック表を用いて把握、管理をしています。プライバシーを重んじ、失敗しても自尊心を損ねない対応を心がけています。	排泄チェック表は、職員全体でいつも共有できる体制が整っています。利用者の様子にいつも目を配り、プライバシーに配慮しながら声かけ等で、出来る限り利用者の自立への支援に取り組まれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の水分摂取量をチェックし十分な水分摂取や運動の実施に努めています。施設では、11時30分と14時30分にラジオ体操を励行しています。コーヒータイムには便通を整え促進すると言われているオリゴ糖を使っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	急がせず、一人ひとりがゆっくりとリラックスして入浴をいただけるように湯船につかる時間も個々の体調や希望に沿って支援しています。入浴タイムには経験話や個人の本音や嗜好等も聞けたりします。	一人ひとりの方が、出来るだけ自分のペースで体調を考慮しながら入浴が出来る支援に取り組まれています。入浴剤等を用いて、入浴をより楽しんでもらえるよう様々な取り組みがされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンやその日の体調を把握して日中の休息や夜間はできるだけ安眠がとれる様に室温や照明、騒音等にも配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服用している薬の効能書は個人のファイルに綴じ、直ぐに確認できるようにしています。服薬に至る支援は分配・準備・服薬までの過程で数回ものチェックを行い複数人での確認作業で誤薬を防ぎ、安全に内服できる様に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ともすればマンネリ化しがちな施設生活を少しでも変化を加え、役割分担での生きる張り合いや一緒に行うことでの連帯感や信頼関係も築きながらレクや体操、趣味等、慶びや憂いのある日々が過ごせるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段の散歩とは別にお花見や紅葉の時期には四季を五感で感じ気分転換が図れる様に計画実施しています。又、個人のご自宅周辺を散策するのも縁ある場所や人達との関係性を継続するためにも今後もその様な支援をしていきたい。	利用者の、希望や体調に配慮されながら施設周辺の川沿いをよく散歩されています。季節ごとのドライブや、馴染みの場所や人に会うための外出支援に取り組まれています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は理解をしていますが、個人での管理は難しい状況があります。ほとんどの方が金銭感覚が乏しくなっております。今のところは、家族との外出時に同伴でのお買い物をお願いしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	母の日やお誕生日の贈り物が届いた際に『お礼の電話をかけたい』『手紙を書きたい』『等』の要望があります。ニューヨークから国際電話が毎週かかる方もおります。縁のある人との繋がりを閉ざさないように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を視覚でも感じて頂けるように壁面アートは利用者とスタッフとで取り組んでいます。晴れの日は夜明けの太陽を皆で拝み、日暮れまでお日様が当たり洗濯物のよく乾く明るい居住空間です。湿度や温度、特に夏場の居室の室温には留意しています。	景色や日当たりも、とてもよい環境にあります。季節を感じる空間づくりに配慮されています。利用者の作品や職員との共同制作の作品を、壁面に飾り明るく居心地のいい、空間づくりに取り組まれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	これまで数回に及ぶ席替えを行いました。限られた居住スペース内で、気の合う利用者同士での思い思いの居場所を工夫するという事はなかなか容易なことではありませんがその都度工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ミニテーブルやソファ、椅子等をお部屋に揃えているかたもあります。ホールの方でもご家族で過ごせる場所や時間を設け、お茶を飲みながらゆっくりとリラックスしていただけるように配慮しています。	利用者が居心地よく暮らせる空間づくりをされているだけでなく、実際に地震があった時の居室の様子を写真や記録に残し、それを参考にしながら新たに配置がえ等の取り組みが行われ、居心地よく、快適で安全、安心に配慮された居室づくりをされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体が段差のないバリアフリーとなっています。開設当初はトイレのドアに“トイレ”と大きく表示したり、部屋の前に目印を置いて戸惑わない工夫をし安全に自立生活が送れる様に支援している。		